

ボルグワーナー、電動商用車向けバッテリーシステムを受注

- 市販されている電池システムの中で最もエネルギー密度の高いソリューション
- 電気自動車の航続距離が先行開発に比べて大幅に向上
- 電動商用車(eCV)の総所有コスト(TCO)を最小限に低減

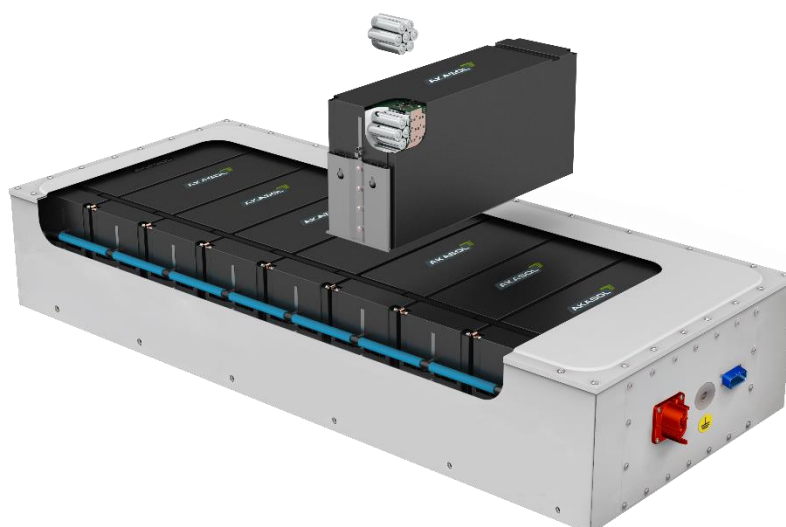
革新的で持続可能なモビリティソリューションを自動車業界に提供するボルグワーナー(本社:アメリカ合衆国ミシガン州アーバンヒルズ、社長兼最高経営責任者:フレデリック・リサルド/Frédéric B.Lissalde)は、ボルグワーナー・アカソルの超高エネルギー電池システムが、欧州の商用車メーカーの大型電動トラックシリーズに搭載されることが決定したことを発表します。18トントラック(4x2 リジッドアクスル)および26トントラック(6x2 リジッド)の量産は、2024年の第1四半期に開始される予定です。

最大747Vで動作するエネルギー集約型の電気駆動系アプリケーション向けに開発された9AKMバッテリーパックは、それぞれ98kWhのエネルギーを貯蔵し、すべてのコネクタを備えてすぐに取り付けることができます。3つのパックは18トントラック(4x2 リジッドアクスル)に294kWhを、4つのパックは26トントラック(6x2 リジッド)に392kWhを供給するために使用される予定です。このバッテリーは、車両の積載量を最大化するためにコンパクトかつ軽量であり、電動商用車(eCV)の総所有コストを可能な限り低く抑えるために、最大4,000サイクルの推定寿命を有しています。さらに、液体冷却とマルチレベルの保護システムにより、安全な運用を実現します。

ボルグワーナーのマルチistringマネージャー(MSM+)は、超高エネルギー電池パックとともに提供され、車両制御ユニットへの単一の通信インターフェースとして機能するため、顧客自身がソフトウェア開発を行う必要がありません。

ボルグワーナーの長距離輸送用ソリューションは、機械的に堅牢であり、本質的に安全で拡張が容易です。1kWhあたりの取得コストが比較的安く、バスやトラック用途のエネルギー密度の新しい基準を設定しており、ボルグワーナーを高エネルギー電池分野のイノベーションドライバーとして確固たる地位に位置づけています。

ボルグワーナーのバッテリー&チャージングシステム担当副社長であるヘンク・ヴァンソノート(Henk Vanthournout)は、「当商用車メーカーとは、以前にも弊社の電池システムを使用した高電圧プロトタイプ車両で協業したことがあり、今回もパートナーシップを継続できることを誇りに思います。この新しいプロジェクトでは、弊社の最新世代の超高エネルギー電池システムが採用され、従来のものよりエネルギー密度が50%向上しています。このアップグレードにより、車両の航続距離が大幅に伸び、長距離の電動商業輸送に理想的なソリューションとなります」と述べています。



ボルグワーナー・アカソルの超高エネルギー電池システムが、
欧州の商用車メーカーの初の大型電動トラックシリーズのバッテリーとして採用

ボルグワーナーについて

ボルグワーナーは、130年以上にわたり、モビリティのイノベーションを成功に導く、変革的なグローバル製品リーダーであり続けています。すべての人にとってよりクリーンで健康的、かつ安全な未来を築くために、世界のeモビリティへの移行を加速させています。

URL: <https://www.borgwarner.com/home>

本プレスリリース(以下、本「リリース」)に記載された内容には、経営陣の現在の見通し、期待事項、試算、推定に基づく、1995年米国私募証券訴訟改革法で想定された将来予測に関する記述が含まれている場合があります。「見込む」、「考える」、「継続する」、「可能性がある」、「目的とした」、「影響」、「試算する」、「評価する」、「期待する」、「予測する」、「目標」、「指針」、「取り組み」、「意図する」、「場合がある」、「見通し」、「計画する」、「潜在的」、「予見する」、「推定する」、「追求する」、「目指す」、「すべきである」、「目標とする」、「の場合」、「でしょう」、「かもしれない」などの文言、その変化形および同様の表現は、かかる将来予測に関する記述であることを意図しています。さらに、歴史的事実に関する記述を除く、本リリースに含まれる、または言及する形で盛り込まれた当社の財務状況、事業戦略、当該戦略を実施するための手段などに関して、将来起きる、または起きる場合があると当社が期待する、または見込むあらゆる記述は、将来予測に関する記述です。その例として、業務の変更、競争上の強み、目標、当社事業および業務の拡大と成長、計画、将来の成功に関する言及などがあります。当社の直近のForm 10-K年次報告書(以下、「Form 10-K」)の第7項「重要な会計方針(Critical Accounting Policies)」で記述されたものをはじめとする会計上の試算は、本質的に将来予測です。すべての将来予測に関する記述は、歴史的な動向、現在の状況、期待される将来の進展、当社がそれらの状況下で適切と考えるその他の要因に関する当社の経験と知見を踏まえた当社による仮定および分析に基づいています。将来予測に関する記述は業績を保証するものではなく、当社の実際の業績は、将来予測に関する記述において表現、推定、または示唆された事柄と著しく異なる場合があります。

これらの将来予測に関する記述は、本リリースの発行日における事柄を述べたものであり、過度に依存すべきではありません。将来予測に関する記述にはリスクおよび不確実性が伴いますが、それらの多くは予見困難かつ一般的に不可抗力によるものであり、将来予測に関する記述において表現、推定、または示唆された事柄とは著しく異なる実際の結果をもたらす可能性があります。そうしたリスクおよび不確実性の例として、当社または当社顧客に影響を及ぼす供給停止(受託製造会社(OEM)顧客および当社を含むそのサプライヤーに影響を与えている現在の半導体チップ不足等)、商品の入手可能性および価格、OEM顧客を含む既存および新規競合会社との競合、急速に変化するテクノロジー(主に電気自動車関連)およびそれに対する当社の革新能力に関連する困難、新型コロナウイルスに関連する事態が及ぼす影響の範囲および期間に関する不確実性(さらなる製造停止等)、電気自動車の需要予測および当社の電気自動車売上成長率の予測の困難、ロシアのウクライナ侵攻による世界

経済の潜在的混乱、買収対象を特定し許容できる条件で買収を完了する能力、近頃のAKASOL AG社、Santrollの乗用車用eMotor事業、Rhombus Energy Solutionsおよび2020年のデルファイ・テクノロジーズ社の買収を含む買収から期待される利益の適時な実現の不実施、売却に適切な燃焼系ポートフォリオ事業を特定し、計画された売却を受け入れ可能な条件で完了させる能力、取得した事業の迅速かつ効果的な統合の不実施、取得した事業に関連する未確認または推測不可能な債務の可能性、自動車およびトラック製造(いずれも景気に大きく左右され、停止の可能性がある)への当社の依存性、大手OEM顧客への当社の依存性、金利の変動および外貨の為替レートの変動、情報システムへの当社の依存性、世界経済環境の不確実性および地域経済における景気後退の可能性、さまざまな損害賠償に関する訴訟など既存または将来の法的手続きの結果、当社が事業を展開している国における税金や関税などの法規制の将来的な変更、将来の買収または処分の可能性による影響、直近のForm 10-Kおよび/またはForm 10-Qの第1A項「リスク要因(Risk Factors)」など証券取引委員会に提出する報告書に記載したその他のリスクが挙げられます。当社は、期待事項の変更または記述の根拠となる出来事、条件、状況、仮定の変更を反映するために、本発表文に含まれる将来予測に関する記述のいずれかを更新する、または更新もしくは改訂を公表する義務を負いません。

<報道に関するお問い合わせ>

ボルグワーナー広報事務局 中井、浜辺

TEL:070-4303-7215(中井)、080-8072-4973(浜辺)

EMAIL: borgwarner-pr@kyodo-pr.co.jp